

## 組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 医学部保健学科

組織目標		達成状況(成果)
( 下記3項目について、特に目標とする客観的指標がある場合は、数値データを引用して記載してください。 )		
教 育	<p>・「保健師教育WG」を中心に、平成23年度入学生から保健師教育を学部内でのコース制にするためのカリキュラム改正を行う。</p> <p>・コメディカル、とくに看護師の学士力向上のため、「教育研究開発WG」、「看護師学部カリキュラム改正WG」でディプロマポリシーの策定、カリキュラムマップの作成を進める。合わせて、科目ごとの講義内容の点検・改善を行い、各科目の位置づけと到達水準を明確化する。</p> <p>・学生の自主学習支援へのe-Learning教材活用推進を図るため、教員のe-Learning教材作成を補助する体制を作る。</p> <p>・ディプロマポリシー達成のため、適した能力と資質をもつ学生を受け入れるよう入学者選抜制度を検証し、必要に応じて改善を行う。</p>	<p>・平成23年度入学生から保健師教育を学部内でのコース制にするためのカリキュラム改正を行った。</p> <p>・コメディカル、とくに看護師の学士力向上のため、平成23年度から看護学専攻のカリキュラムを改正するとともに、保健学科のディプロマポリシーを策定し、各科目の位置づけと到達水準を明確化した。</p> <p>・教員のe-Learning教材作成を補助してもらえるチケットを購入したが、利用回数は予定の半数にとどまった。</p> <p>・放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻では前期日程、後期日程とも入試倍率はむしろ上がったが、看護学専攻では実質前期1.5倍、後期2.0倍となったため、個別学力試験の科目を見直すことにした。</p>
	達成度： 4 ③ 2 1	
研 究	<p>・学生が広い視野と柔軟な視点をもてるよう、看護学専攻でも公開形式で卒業研究発表会を行う。</p>	<p>・看護学専攻でも公開形式で卒業研究発表会を行い、非常に好評であった。</p>
	達成度： ④ 3 2 1	
社 会 貢 献	<p>・平成21年度に関連病院を対象に行った調査から、地域の病院で求められているのは専門看護師、認定看護師等の認定資格をもつコメディカルよりも、深い基礎知識と応用能力、高い実践能力をもつコメディカルであることが確認されたので、「教育」の項に記載した学士力向上のための取組を推進する。</p>	<p>・看護学専攻のカリキュラムを改正して、平成23年度入学生から生命科学、医学、看護学の基礎知識を強化し、応用能力、高い実践能力が身につくようにした。</p>
	達成度： ④ 3 2 1	
評 価 の 客 観 的 指 標 ・ 定 義	事 項	定 義 ( 抜 粋 )
	学部入試倍率	評価年度の前年に実施した入試と評価年度に実施した入試の志願倍率 算出方法：前期入試、後期入試、AO入試及び推薦入試毎及び各入試の合計により算出した「志願者÷募集人員(小数点3位を四捨五入)」の数値
	大学院充足率	評価年度と評価年度の翌年度の充足率 算出方法：4月入学者の「入学定員÷入学者数(小数点3位を四捨五入)」の数値。
	留年・休学・退学者数	評価年度と評価年度の翌年度の留年・休学・退学者数 留 年：正規の在学年数を経過したにも関わらず卒業延期となっている者
	就職率	評価年度のデータが揃わないこと等が想定されるため、比較可能な直近3年程度の推移・傾向から判断する。
	科研費申請率、科研費採択率、採択金額	
	共同研究件数、受託研究件数、受入金額	評価年度の前年と評価年度に実施しているとして公表した共同研究及び受託研究件数、受入金額
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。		

【達成度】 4：非常に優れている 3：良好である 2：概ね良好であるが改善の余地あり 1：不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。